

佐按さるに往古け井泉を多りて泉大明
神と稱し、又より大泉の底といへる名も出
りたりや、吳國書より天子命有司祈祀に
海大川名源淵澤井泉とあり、壬午罷板の
旨用集民書に河内必通法寺といふは若
源郡將軍の居城と、通法寺の山は別之將
軍の寺廟あり、賴信賴義家等を壺井
権現と云ふも、又通法寺の口の方には井あり
是則美州此陳の河水は濁し、^車あり、^心時賴義
親善へ祈誓し、あへて忽然とて清水湧

出、依て此海陳の言け水を壺へ入、彩とに
井をわくを核し、あふによつて壺井と号に
とあり、陸奥より清水を導き、^心一事、^心大
平記にも見へり、^心賴義出羽必と表入るを
あふ事記、^心源にも見へ、^心底にも、^心其事、^心記、^心教、^心多
あれ、^心泉大明神も、^心美州より、^心得、^心あふ、^心清水と
此陳陳の河内必と持さ、^心あひて、^心壺井、^心権現
と、^心案、^心あひ、^心賴、^心あふ、^心唐古より、^心井泉を、^心多ると
同、^心名、^心り、^心泉、^心山、^心の、^心社、^心地、^心、^心往古、^心泉、^心の、^心湧、^心出、^心と
いふ、^心美州、^心加、^心美、^心川、^心の、^心芳、^心も、^心似、^心たり、^心通、^心國、^心納